

平成 27 年度 高齢福祉部事業報告

平成 27 年度の介護保険改正により介護報酬が大幅に下げられることになり、職員一同利用率や稼働率に注意をはらいつつ事業活動を行った。またリーダー会議での報告や連絡を密にしかつ在宅会議で在宅サービスの効果的提供を促進するための調整等情報交換を積極的に行った。

事業ごとの業務内容は次の通り。

○ 特別養護老人ホーム セ・ラ・ヴィ

・入所施設・短期入所施設・・・＜P.22＞

(利用率)

入所 50 床・短期 10 床の 60 床の利用率は 96.4%となり前年度と比べ 1%下がっている。これは年度最初に特養の退所者や入院が多く発生し、利用率が大きく下がったのが影響している。

入所利用率 96.2%、昨年 95.0%と上がっているが、短期入所利用率が 97.7%と昨年 109.3%と下がっている。

ショート稼働率の減少は在宅での利用者が施設に入所されたり、健康の悪化での入院や入所の空床埋めができなかったところにある。

(介護度)・・・＜P. 22-23＞

今年度の入所者平均介護度は 4.00 (前年度 3.95) と大きく変わらず、入所の介護度 4～5の方が全体の 70.7% (前年度 66.5%) と重度化が進んでいる。

短期入所利用者の平均介護度は 3.38 と昨年の 3.21 よりやや重度化している。

(年齢)・・・＜P. 23＞

入所者の平均年齢は 85.8 歳であった。男性の平均年齢は 79.7 歳、女性は 86.9 歳で、施設内の最高年齢は男性 93 歳、女性 101 歳であった。

(入退所・待機者)・・・＜P. 23＞

特養の年間退所者は 9 人、入所者は 10 人。退所者は昨年度比 5 人減っている。

待機者は 3 月末で 223 人となり、その内要介護 3 以上 177 名となる

(事故・ヒヤリハット)・・・＜P.24-25＞

事故件数は年間 37 件で前年度の半数である。大半が転倒・転落・ずり落ち 21 件である。

ヒヤリハットは 311 件で昨年より 46 件の増となっている。

気付きが増え介護力の向上が見られるが、「その他」58.5%の内容に薬関連のヒヤリが多いのはいつも変わらない課題である。

(食事提供・栄養)・・・<P.26>

食事栄養委員会を月 1 回開催し、業務委託先とも綿密な打ち合わせを行いながら美味しくかつ利用者の状態に沿った食事を提供している。他職種協働でケアプランを作成し月 1 回の体重測定、必要に応じ血液検査を実施し入所者の栄養状況を把握しながら個別対応に努力した。食事の形態は 3 月末時点で普通食（ご飯・おにぎり・軟食・全粥）16 名、キザミ食（ご飯・軟食・前粥・パン・パン粥）15 名、ミキサー食（全粥・パン・パン粥）13 名、経管栄養 6 名となっている。

・訪問介護事業・・・<P.27>

年齢層が高いヘルパーの中、昨年 12 月から比較的若い嘱託 1 名増え機動力が上がった。要介護訪問回数は平成 26 年度 6,980 回に対し今年度 7,409 回で増加。

予防介護利用者数 886 名に対し前年度 869 名と、少し増加した。今後、要介護、身体介護・固定利用者の回数を増やすことが大きな課題である。

○ 東灘在宅福祉センター

・居宅介護支援事業（えがおの窓口）・・・<P.29>

介護の給付管理件数は 1,893 件で前年度比 111.4%となり、昨年に続き伸びがある。認定調査は 429 件（月平均 35.7 件）昨年件数 414 件（月平均 34.5 件）と 15 件増を調査している。要介護・要支援・認定調査を専従 4 名と兼任 3 名・調査専従 1 名の構成。

・東灘デイサービスセンター・・・<P.31>

1 日平均人数 28.8 人（H26 年 27.5 人）と 1.3 人増やしている。

利用者数が 30 人以上の日も増え、デイルームが手狭になったり、入浴時間の延長もある。介護量は増えているが、職員は好成績を残している。

個人のご希望で随時の時間帯利用も受け入れ、食事と入浴の半日利用などもチャレンジしている。全体の利用者に対してはお出かけレクリエーション、調理レクリエーション、ボランティアによる催しなど楽しい 1 日を過ごしていただくために数多くの工夫を行っている。

○ 住吉南町デイサービスセンター・・・<P.33>

通所介護、介護予防通所介護を併せ利用者は1日平均 12.6 人と前年度と変わらず。毎月の細やかなレクリエーション計画をたて、外出や、少人数を生かした利用者の求める楽しみに沿ったサービスに努めた。

○ 地域包括支援センター（住吉南部あんしんすこやかセンター）・・・<P.33>

地域包括ケアの充実が全国的な課題であるが当センターの圏域内で高齢化率も高く独居家庭も多い呉田地域を引き続き強化地域とし、「キララ元気教室」も立ち上げ地域の見守り推進の強化をしている。

相談内容では地域が抱える福祉問題の相談や地域見守り活動が延べ件数で 7,379 件となり月平均では614件（昨年より約41件増）となった。

介護予防給付管理件数は 2,675 件、と昨年に比べ 205 件増えている。確実にあんしんすこやかセンター業務が年々増加している。